

提出日 平成25年3月25日

平成24年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 (該当に○)

海外共同 共同研究 個人研究・出版助成

研究代表者 (所属・職名・氏名)

看護学科 准教授 菱刈美和子

研究課題名

こころの健康を保つための精神疾患と脳神経疾患の認識の差異とその影響

研究分担者 (共同研究者)

石川幸代

菊地きよ美

原田瞳

研究期間

2012年10月～ 2015年3月

研究を実施することになった経緯 (海外共同の場合のみ記入)

研究組織 [氏名, 所属, 役割分担]				
主任研究者名	菱刈 美和子	所属	看護学科	研究倫理委員会提出責任者、 アンケート調査、データ入力、分析、原稿作成
共同研究者名	石川 幸代	所属	看護学科	アンケート調査、データ入力、分析、原稿作成
	菊池 きよ美	所属	看護学科	アンケート調査、
	原田 瞳	所属	看護学科	アンケート調査
研究発表 (印刷中も含む) 雑誌及び図書				
第 44 回日本看護学会	精神看護	9 月 19 日、20 日分	開催に演題申し込み予定 (4 月 1 日)	採用されれば、発表後論文提出予定 題目 精神疾患の理解と脳神経疾患の理解との認識の差
第 44 回日本看護学会	看護教育	10 月 9 日、10 日	開催に演題申し込み予定 (4 月 1 日)	採用されれば、発表後論文提出予定 題目 こころの健康認識の実態調査 ―看護系大学生と一般大学生との比較―
第 33 回日本看護科学学会	学会学術集会	12 月 6 日 7 日	開催に演題申し込み予定 (4 月 6 日)	題目 自己効力感とこころの健康教育について

研究実績の概要 形態

本研究は、2012年10月2日 共立女子大学・共立女子短期大学研究倫理審査（承認番号KWU-IBRA # 12033）の承認を受け、下記の目的、内容で実施した。

「研究の目的」

精神疾患と脳神経疾患の認識の差異を明らかにし、その認識の差異はどのように影響するのかを明確にし、精神疾患、脳神経疾患の理解を促進する授業計画に役立てることを目的とする。また、精神疾患に対する理解とこころの健康への意識の関連性、自己効力感とこころの健康への意識の関連性を明らかにし、学生自身のこころの健康の維持・増進への一助にすることを目的とした。

「調査方法」

1. 調査対象は関東圏にある看護系短期大学1年生98名（以下A群と略）、看護系大学1年生94名（以下B群と略）、文系大学1年生100名（以下C群と略）で、うち、268名（有効回答率91.2%）を分析対象とした。
2. 調査時期は2012年10～11月。データ入力、分析期間：2012年12月～2013年3月初旬。
3. 調査内容は自作の質問紙による無記名式団体調査。質問紙の内容は以下の通りである。
 - 1) 基本的属性(性別, 年齢, 学部学科)。
 - 2) 精神疾患の理解を問うもの：4項目。(1) 誰もがかかる疾患だと思うか(2件法と理由)、(2) 身体の中の部分に起因する疾患と思うか(多重回答形式)、以下自由記述 (3) どんなイメージを持っているのか、(4) 知っている病名は何か等。
 - 3) 脳神経疾患の理解を問うもの：3項目(詳細は(2)以外は精神疾患の理解に同じ)。
 - 4) 精神疾患と脳神経疾患の違いについて1項目。
 - 5) 日常のこころの健康への意識に関するもの：(1) 他者のこころの健康を考えたことがあるか(2件法) 以下自由記述(2) 自分自身のこころが健康である状態とは、どのようなイメージですか。(3) 他者のこころの健康を考えたことがありますかと具体的内容(4) 学生生活における「こころの健康」について
 - 6) 自己効力感(自己効力感尺度を用いて測定)

それぞれの調査内容は、対象全体とグループごとに集計、分析し、特徴、差異について分析した。各群比較は一元配置分散分析、性別はMann-WhitneyのU検定を実施し、自由記述は研究者間で納得のいくまでカテゴリー化した。自己効力感は信頼係数を求め、因子分析を行った。また高低群に区分し、こころの健康への意識との関連を分析した。

4. 調査の手続き

研究者が授業開始の前に、倫理的配慮に基づき、調査対象に調査の協力を求め、承諾が得られた学生に一斉に質問紙を配布し調査を行った。看護系大学は研究協力者：群馬医療福祉大学看護学部教授福山なおみ、医療系大学以外は、国士舘大学文学部教育学科教育学専攻教授折原茂樹のもとに各大学の承認を経て実施した。

5. 倫理的配慮

本研究は、筆頭筆者が所属する機関の倫理委員会の承認を得た。(承認番号：KWU-IBRA# 12033)。倫理的配慮として、調査対象に①調査の趣旨と方法、②データの取り扱いと公表に伴う個人情報の保護、③調査への参加は自由意思によるもの、④調査の参加・中断、調査結果は成績評価には関係せず、教育上の不利益を被らないことについて口頭と書面で説明し承諾を得た。